

## シマウマは“横断歩道”？

アニマルフォトグラファー  
トラベルライター

平 岩 雅 代

「シマウマは“横断歩道”です」といわれて、「えっ、どうして?」と不思議に思う方が、ほとんどでしょう。

これには、ちゃんと理由があります。英和辞書(もっとも最近では電子手帳でしょうか?)のシマウマ(zebra)の項目を引いてみますと、zebracrossingは「白線の塗ってある歩行者優先横断歩道」とあります。つまり、シマウマの体にある白と黒のあのシマ模様が、道路に引かれている横断歩道と同じというわけなのです。(シマウマの立場からいえば「シマ模様はこっちのほうが先で、横断歩道が勝手に真似をしたくせに……」となるのかもしれませんが)

それはともかく、シマウマには生まれた時から模様があります。この模様は一頭一頭すべて違い、注意深く見ますと、親子や兄弟でも微妙に違ってきます。生まれたばかりの赤ちゃんの毛並みは不揃いで、白と黒ではなく、白と茶色です。それが成長とともに茶色から黒へと少しずつ濃くなりますが、成獣のオスが白と真っ黒になるのに比べ、メスは黒に近いこげ茶色くらいです。

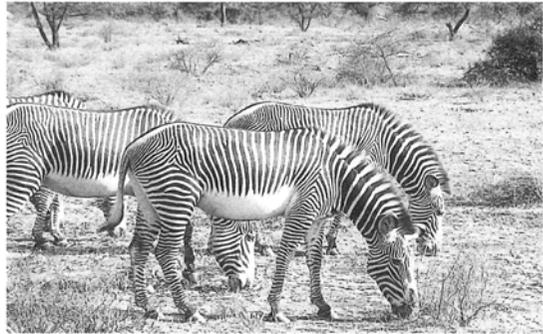


写真1 シマの幅が狭いグレイビー・シマウマ

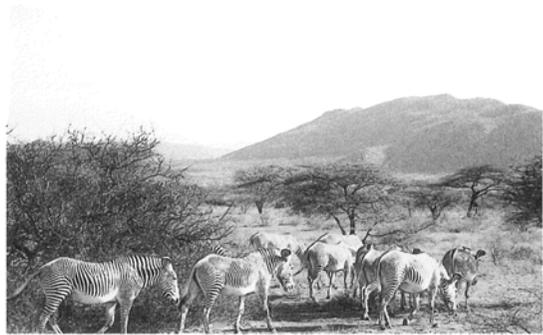


写真2 遠目には模様が薄く見える

す。定期的に“大移動”をするヌー(ウシカモシカ)と行動を共にするシマウマもいますが、このシマウマは“グラント・シマウマ”という種類で、白と黒のシマ模様の幅が広く、腹の両脇から腹の下まで、模様が伸びてく

っついています。

ところが、ケニアの北部のサンプル、バッファロー・スプリングス、メルー、マルサビットといった動物保護区域に生息するシマウマは、まったく種類が違う“グレビー・シマウマ”というシマウマです。

グレビー・シマウマは、白と黒のシマ模様の幅が狭く、模様も腹の両脇の途中の前後肢のつけ根ぐらいのところで消え、腹の下は真っ白です。

グレビー・シマウマを遠くから見ますと、模様がぼやけて、無地のように錯覚することもあります。

東京の多摩動物公園に飼育されているのは、グレビー・シマウマですが、自然の造形美の素晴らしさに、思わず惚れ惚れと見とれてしまうほど……。

アフリカの野生の世界では、シマウマの天敵はライオンですが、ある時、私は動物学者の興味深い話を聞きました。それは、ライオンは人間のように色の違いを識別することができず、目に見える世界はモノクロームなので、シマウマのシマ模様は、草原では絶好の隠れミノになるつまり、生まれつきカモフラージュのマントを着ているのと同じことなのだ、というものです。

この話を聞いてから、目立って敵から見つかりやすいとばかり思っていたシマ模様が、実は身を守るためのものだったことを改めて知り、感心しました。

子ども向けの本の中には、いろいろな動物が主人公になる絵本や童話が少なくありませんが、私が大好きな外国の絵本の中に、虹のように七色のシマ模様を持つ、シマウマの子の話があります。

『レインボー・ゼブラ』という題名のそのあらすじは—

あるジャングルの奥深くで、シマウマたちが遊んでいました。ところが、その中の一頭だけは白と黒のではなく黄色、緑、赤、青といった七色の模様でした。「みんなと同じになりたい」と、そのシマウマは水に入って体をこすったり、泥を浴びたり、日光浴をしたりしましたが、ききめがありませんでした。そしてとうとう「さよなら」と群れから出て行ってしまいました。「どこかに僕みたいな模様のシマウマがいるかもしれない」と思いながら、シマウマはジャングルのあちこちを歩き回り、いろいろな動物や花たちと出会い、雨に降られ、雨上がりの空にかかった大きな虹のアーチを見上げて「虹ってなんて美しいだろう。この模様は僕とそっくりだ」と感じ、仲間とは違う自分だけの虹のシマ模様を誇りに思い、みんなの待つジャングルに帰りました。

そして虹色のシマウマは、仲間たちと一緒に幸せに暮らしました。

この絵本を読んで私は、個性を伸ばすことを尊重する外国の教育方針を、改めて教えられました。何が何でもみんなと同じ、右へ習えでは、没個性の人間になってしまうような気がします。みなさんはどうお考えでしょうか？